

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
 会長 佐藤 正行
 事務局長 新津 智哉
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 (株) 有 伸 商 会
 TEL (011)814-6211

第35回 読書感想画中央コンクール 審査終了 第11回 読書感想画全道コンクール

第35回読書感想画中央コンクール・第11回読書感想画全道コンクールの審査が、1月8日(月)、毎日新聞社北海道支社で行われました。今年も全道からたくさんの作品が応募されました。小学校低学年・小学校高学年・中学校・高等学校の4部門から、最優秀賞、優秀賞、優良賞、奨励賞の作品が選ばれました。

最優秀賞

小学校低学年の部



「森にいるアレクサンダ」
 札幌市立北郷小学校2年 佐々木 結季也
 『アレクサンダとぜんまいねずみ ともだちをみつけたねずみのはなし』好学社(レオ・レオニ/作)

小学校高学年の部



「ありがとうお母さん」
 栗山町立継立小学校4年 尾 泉 花
 『ブックキャット:ネコのないしょの仕事!!』徳間書店(ポリー・フェイバー/作 クララ・ウリアミー/絵)

中学校の部



「わずかな希望」
 札幌市立澄川中学校2年 小 菅 雪
 『パップという名の犬』評論社(ジル・ルイス/作)

高等学校の部



「個性」
 札幌大谷高等学校2年 横 溝 柚 穂
 『小さな星だけど輝いている』かんき出版(ソユン/著)

最優秀賞・優秀賞・優良賞 受賞者一覧

《最優秀賞》

※森にいるアレクサンダ

※ありがとうお母さん

※わずかな希望

※個性

《優秀賞》

※おにゃけ

※かがみの中にすいこまれたぼく

※狙われる命

※ケイトの自然と海

※突飛な絵

※実験

※青い細胞

《優良賞》

こうえんおにゃけ

※イライラあらし

ねずみの家ぞく

おにと人間の話しあい

※一本の矢

ねらわれている町

ぜったいにげるぞバツ

春がきた魚おさえて

無音の世界で、だれかに助けを求めてた

強く、

※全てで感じるこの世界。

お伽噺

《学校賞》

○小学校の部 栗山町立継立小学校

○中学校の部 旭川市立愛宕中学校

○高等学校の部 該当校なし

※=全国行き作品

札幌市立北郷小学校

2年

佐々木 結季也

栗山町立継立小学校

4年

尾 泉 花

札幌市立澄川中学校

2年

小 菅 雪

札幌大谷高等学校

2年

横 溝 柚 穂

札幌市立北郷小学校

1年

村 山 ころ

室蘭市立天神小学校

2年

大 野 由

栗山町立継立小学校

4年

大 鶴 川 青 空

岩見沢市立岩見沢小学校

4年

氏 家 結 菜

旭川市立愛宕中学校

1年

星 見 那 奈

市立札幌開成中等教育学校

2年

土 永 理 咲

北海道芽室高等学校

1年

山 本 采 里

札幌市立北郷小学校

1年

伊 藤 春 馬

栗山町立継立小学校

2年

小 倉 倉 碧 生

札幌市立北郷小学校

2年

小 岩 崎 湊 斗

札幌市立本郷小学校

3年

晒 谷 楓

栗山町立継立小学校

4年

不 破 玲 実

栗山町立継立小学校

4年

棣 棠 生 英

岩見沢市立岩見沢小学校

4年

安 藤 昂 佑

岩見沢市立岩見沢小学校

4年

菊 地 璃 音

旭川市立愛宕中学校

1年

神 田 紗 良

旭川市立愛宕中学校

1年

吉 岡 ひ な

北海道教育大学附属旭川中学校

2年

大 真 串 雪

市立札幌開成中等教育学校

3年

眞 田 花 桃

第35回読書感想画中央コンクール・第11回読書感想画全道コンクール【総評】

本と自分の間に生まれた「思い」を込めて

北海道造形教育連盟

大 高 雅 子

(札幌市立あやめ野中学校 校長)

第11回読書感想画全道コンクールには、道内各地から542点の作品が集まりました。

応募数は昨年度よりわずかに減少したものの、今年もたくさんの作品から溢れ出る子どもたちのみずみずしい感性に触れることができ、大変嬉しく思っております。

当日の審査会では、子どもたちの発達段階を考慮し、小学校低学年（1～3年生）、小学校高学年（4～6年生）、中学校、高等学校の4つの部門に分けて審査をいたしました。

低学年では、友達や先生、家族との会話を楽しみながら、心惹かれる場面などを描いている作品が多く、挿絵のある本であっても、新しい場面やキャラクターを生み出して表すなど、自らお話の世界に入って一緒に楽しんでいる様子が伝わってきました。

高学年では、物語の主題を深く読み取り、自分が感じた喜びや悲しみなどの思いを、色彩や形の構成、表現技法を工夫して描こうとする想像力の豊かさを感じました。

中学校・高校では、物語が織りなす複雑な世界観を読み解き、自分なりの解釈をもとに主題を設定し、豊かな描画力や個性ある構成によって、作品に込めた思いを観る人に伝えたいという熱量を感じました。

「読書感想画」を描くことは、物語と読み手の間に生まれた感情を、より鮮明に、より深めながら自分の経験として高めていく取組です。審査を通して、作品づくりに向き合う子ども一人一人の姿を思い浮かべながら、読書が共感力や想像力などの育成に資することを改めて感じました。

本コンクールへの応募に際し、保護者や学校の先生方など、子どもたちに関わってくださった皆様には、温かいご理解と熱心なご指導を賜り、心から感謝申し上げます。また、主催する北海道学校図書館協会と毎日新聞社には、本事業への熱意ある取組に敬意を表します。

今回の取組をきっかけとして、子どもたちが、これからも読書に親しみ、素敵な本たちと巡り合うことで、自己の確立と成長の礎を築いてくれることを願っています。

奨励賞 受賞者一覧

奨励賞(小低)

札幌市北郷小 1年 綿谷ひまり
 札幌市北郷小 1年 椿谷 桔平
 札幌市北郷小 1年 加藤 新菜
 札幌市北郷小 1年 坂井 遥太
 札幌市北郷小 1年 菅沼 愛結
 札幌市北郷小 1年 吉田 芽莉
 札幌市北郷小 1年 斉藤 優羽
 札幌市北郷小 1年 佐藤 心美
 札幌市北郷小 1年 田中 柚衣
 札幌市北郷小 1年 厨子 葵衣
 札幌市北郷小 1年 高橋 渚
 札幌市北郷小 1年 大島 明莉
 札幌市北郷小 1年 安原 龍生
 札幌市北郷小 1年 羽原 帆椛
 札幌市北郷小 1年 千葉 映舞
 札幌市北郷小 1年 高橋 蒼空
 札幌市北郷小 1年 直原 晴美
 札幌市北郷小 1年 佐用虎之介
 札幌市北郷小 1年 松倉 瑛佑
 札幌市北郷小 1年 木村 凜
 札幌市北郷小 1年 菅崎 心優
 札幌市北郷小 2年 大西 柊誠
 札幌市北郷小 2年 廣瀬 咲心
 札幌市北郷小 2年 金澤 穂嵩
 札幌市北郷小 2年 大澤 琴葉
 札幌市北郷小 2年 伊藤 星奈
 札幌市北郷小 2年 阿部 結羽
 札幌市北郷小 2年 石川 桜雪
 札幌市北郷小 2年 川瀬 璃子
 札幌市北郷小 2年 土屋 望椛
 札幌市北郷小 2年 高田 奈波
 札幌市北郷小 2年 大作 歩叶
 札幌市北郷小 2年 村上 杏莉

札幌市北郷小 2年 佐藤 昉斗
 札幌市北郷小 2年 川島 夕奈
 札幌市北郷小 2年 立石 滋飛
 札幌市北郷小 2年 丹波 明花
 札幌市北郷小 2年 山崎 仁太
 札幌市北郷小 2年 佐熊里玖人
 札幌市北郷小 2年 望月 葵生
 札幌市北郷小 2年 秋元 爽佑
 札幌市北郷小 2年 三浦 梨央
 栗山町継立小 2年 後藤 雫
 岩見沢市岩見沢小 2年 佐藤 悠俐
 岩見沢市岩見沢小 2年 新堂 瑚舶
 岩見沢市岩見沢小 2年 花岡 夢花
 岩見沢市岩見沢小 2年 石上 夢翔
 岩見沢市岩見沢小 2年 平澤 彩夏
 岩見沢市岩見沢小 2年 藤嶋 心也
 札幌市白楊小 2年 新岡 恭子
 札幌市八軒北小 2年 雲龍 由茉
 苫小牧市沼ノ端小 2年 鈴木いちか
 苫小牧市拓勇小 3年 京極 莉空
 札幌市白楊小 3年 松本 結葵
 札幌市札幌小 3年 山口 瑠葵
 札幌市札幌小 3年 木内まりあ
 札幌市札幌小 3年 船木 茅夏
 札幌市札幌小 3年 佐々木一颯
 札幌市札幌小 3年 牧野 瑠那
 札幌市札幌小 3年 津田悠乃介
 札幌市北郷小 3年 佐藤 星凜
 札幌市北郷小 3年 佐藤 蒼斗
 札幌市北郷小 3年 外岡 未悠
 札幌市北郷小 3年 山本 啓太
 札幌市北郷小 3年 山田 悠馬
 札幌市北郷小 3年 新家しあん
 札幌市北郷小 3年 松倉咲太郎

札幌市北郷小 3年 佐藤 雄飛
 札幌市北郷小 3年 氏家 柚葉
 札幌市北郷小 3年 前田菜々美
 札幌市本郷小 3年 晒谷 楓
 札幌市八軒北小 3年 菅原 彩音

奨励賞(小高)

岩見沢市岩見沢小 4年 土崎 麗
 岩見沢市岩見沢小 4年 中山 湊
 岩見沢市岩見沢小 4年 三嶋 芽衣
 栗山町継立小 4年 國田 陸貴
 札幌市豊平小 4年 山本明日奏
 増毛町増毛小 5年 小野 華愛
 増毛町増毛小 5年 宮本 俊洋
 増毛町増毛小 5年 仙北 暖
 増毛町増毛小 5年 小笠原心陽
 増毛町増毛小 5年 竹内 晃太
 増毛町増毛小 5年 石田琉生愛

奨励賞(中学)

旭川市愛宕中 1年 美濃島風沙
 旭川市愛宕中 1年 石田 そら
 札幌市新陵中 1年 鎌田 美輝
 札幌市新陵中 1年 藤巻 玲南
 北海道登別明日中等教育学校 2年 成澤結紀乃
 旭川市愛宕中 2年 安井 千尋
 札幌市新陵中 2年 片山 瑛太

奨励賞(高校)

該当なし



「GIGAスクール時代の学校図書館を考える」

講演：専修大学文学部教授 野口 武 悟 氏

講師紹介 (北海道学校図書館協会 会長 佐藤 正行)

専修大学文学部教授 野口武悟先生は、図書館情報学がご専門であり主に学校図書館、読書バリアフリー、電子図書館等の先進的な研究をなさっています。現在、放送大学客員教授、文部科学省子供の読書活動の推進等に関する調査研究検討委員会委員など多方面でご活躍されています。全国学校図書館協議会編集委員会委員長も務められ、全国SLAにおいて指導的立場で貢献されています。主な著書に、『読書バリアフリーの世界』（三和書籍、2023年）、『学びの環境をデザインする学校図書館マネジメント』（悠光堂、2022年）など多数あり、精力的に執筆活動もされています。



研修講座の基調となる講演は、国の施策や動向、学校図書館の役割と期待される事柄について大変わかりやすくお話いただき示唆に富む講演となりました。その概要を紹介します。

1. 教育の情報化をめぐる状況

社会におけるICTの進展に伴い、学校教育にもデジタル環境の整備と活用が進められている。「教育の情報化施策」としては、2016（平成28）年に「教育の情報化加速化プラン～ICTを活用した「次世代の学校・地域」の創生～」が策定され、初めて「1人1台端末」の整備が盛り込まれた。その後、2019（令和元）年に「学校教育の情報化の推進に関する法律」が制定され、同年「GIGAスクール構想」が発表されている。

2. 子どもの読書活動推進施策とGIGAスクールとの関係

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して児童生徒の資質・能力を育成するためにはアナログとデジタルを効果的に組み合わせて活用することが重要である。このような学習活動の充実のため、学校図書館の利活用は大変有効である。また、公立図書館の電子貸し出しサービスは、各学校における学習活動のほか、長期休業中の児童生徒や、感染症や災害発生等の非常時にやむを得ず学校に登校できない児童生徒の自宅等での学習においても効果的である。さらに、1人1台端末を読書活動に結び付けることで中高生世代の読書推進、読書バリアフリーや多言語対応の推進が期待される。

3. 求められる学校図書館DX

読書と学びに有効な無償のデジタルコンテンツのセレクトにおいて、司書教諭・学校司書等には、紙の図書資料で培ってきた選書の眼を生かしていくことが期待される。図書資料などと関連付け、紙か電子かの二者択一的なメディア利用にならないことに留意することが大切である。また、「Wikipedia」の扱いについては情報検索の入り口であり、根拠とすべき情報源ではないが、情報活用能力を育成する教材として活用することが可能であり、出典の有無を意識し、情報の信頼性について考える機会にすることは有効である。

4. 生成系AIの登場は学校図書館に何をもたらすのか

AIには確かな情報であるかどうかの判断はできないためフェイク・ニセ情報が混じる。AIに操られないための情報活用能力が不可欠であり人間がAIを操るという前提を見失ってはいけない。確かな情報源へのアクセスの保障と読書能力、情報活用能力の育成のために、AIの全盛時代を迎えた現代に改めて学校図書館の存在意義が見直されており、司書教諭・学校司書にはデジタル、AIを含めて、情報メディアとそのリテラシー育成の専門家としての存在と専門性が期待されている。



(文責：北海道学校図書館協会 事務局長 新津智哉 (札幌市立西陵中学校 校長))

●第56回北海道学校図書館研修講座に参加して

司書力を磨く3日間

札幌市立青葉中学校 学校司書 吉川美紀

2024年は元旦の大地震、2日の飛行機事故の大惨事と当たり前の日常や、学ぶことができる環境が整っていることに感謝する一年のスタートとなりました。この講座に3日間参加できたのも、北海道学校図書館協会、講師の方々、会場となった学校など運営に携わった皆様のおかげです。ありがとうございました。

私は学校司書として今年で4年目になります。学生時代に司書資格は取得したものの、資格を活かして仕事をした経験がなく司書資格はすっかりホコリを被っていました。もう一度司書としての学びを深めたいとの思いから、札幌市の中学校司書の横のつながりによって知ったこの研修講座に昨年より参加させていただいています。

1日目、野口武悟先生の講演「GIGAスクール時代の学校図書館を考える」では、先生の最新の研究や他の地域での取り組み、事例などデジタルと本の最新情報を聞くことができました。メディアセンターとしての役割を担っている学校図書館の司書には必要な知識だと強く思いました。

2日目、新田裕子先生のレファレンス実習はとても難しく、とても楽しい経験となりました。札幌聖心女子学院の百科事典の総索引がボロボロになっているのをみて司書の関わりで生徒の探究心が育まれていることを体感し、司書力の奥深さを感じました。

3日目、勤務校で特別支援学級の図書館利用を来年度からより増やしていきたいと思い、松澤真凛先生の実践発表に参加しました。公共図書館との連携、他の教職員を巻き込んで生徒が本と関わっている事例は、司書として授業支援の幅が広がりました。また司書が準備したブックリストはとても参考になりました。

3日間で学んだことを学校図書館に活かしていきたいと思えます。そしてこれからも講座に参加し司書力を磨きたいと感じました。



●第56回北海道学校図書館研修講座に参加して

知らないことを知る

札幌市立新琴似小学校 司書教諭 野澤春花

2年前から司書教諭として図書館に携わり始めました。最低限の業務が少しずつできるようになり、更なるスキルアップを目指し受講することに決めました。

大きな図書館に初めて行ったときに感じた、情報に圧倒され、情報に溺れるような感覚を、どの講座でも思い出しました。自分がまだ何も知らないことに気付けると、知ることが楽しくなるし、知ったことを生かしたくなるのだと改めて気付かされました。

佐藤広也先生の講座では、先生の発問により、まるで自分が物語の一部となって入り込むような感覚になりました。長篠合戦図屏風のアニメーションでは、「〇〇（織田、山縣などの人物）を探そうクイズ」を実践してくださいました。正解するには当てずっぽうではいかず、根拠を探すこととなります。そのうちに自然とその時代背景に自分を取り込まれていき、「もしこの中の、この人が私だったら・・・」などと思いがあふれました。こうした共感が引力をもって、他の知識をつなぎ合わせていく感覚を作るために、自分事と思える発問を増やしていきたいです。

井上陽子先生の講座では、環境整備の具体例を教わることができました。「疑問や問いを大切にすること」ということは、子どもたちが「その解決に向けた方法を自分で選べる」ということだと感じました。井上先生の実践では、子どもたちの「知りたい」という情熱が勢いを落とさず導かれていました。調べ学習の過去の作品を展示したり、調べるきっかけを必ず書かせたりといった仕掛けを通して、日ごろから図書に触れられることが重要なのだと思います。

帰り道では「無知の知」とは、こういうことなのかな、子どもたちもこんな楽しい経験をさせてあげられる人になりたいな、と感動とやりたいことがいっぱいでした。恩返しするつもりで、子どもたちにこの気持ちを還元していけたらと思います。

◆第56回北海道学校図書館研修講座に参加して

理念から実践まで、全てを学べる研修講座

白樺学園高等学校 田村 香

「今年は何ができたのか、どこまで進められたのか」と一年を振り返る時期に、この講座のご案内をいただきますと「この講座に参加すれば、次にやるべきことが見え、今やっていることの改善策も何かわかるはずだ」とまた新たな気持ちで自校の図書館に戻ることができます。そして、実際に研修会に参加いたしますと、毎回、理念から実践まで必ず多くのことを教えていただけます。このような研修の機会を与えてくださる北海道学校図書館協会の皆様にご心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

1日目の午前、野口先生による全体講演「GIGAスクール時代の学校図書館を考える」では、「紙とデジタルのベストミックスの追求」について学びました。図書館資料にはネットワークを介して得られる情報コンテンツも含まれ、図書館担当者には学習に有効なコンテンツを探し伝えていく役割もあるとのことのお話があり、具体的なコンテンツをいくつもお紹介いただきました。また、AIについては教育効果が期待される一方でその学習対象（情報源）が明らかにされていないことを考えると、読書によって得られる情報とインターネット等から得られる情報は信頼性において異なるものだと改めて確認することができ、まだデジタル化されていない紙の本の情報を再評価すべきだと感じました。

午後の前半の講義「管理と運営」では、野村先生が本を使った自己紹介をしてくださり、その中で学校図書館法の成立までの経緯や成立時の様子、朝鮮戦争が与えた影響についてお聞きし、図書館の自由を守ることと学校図書館を運営する責任の重さを感じました。午後後半の講義、児玉先生の「図書館活動」では、資料・情報の提供や広報、委員会や教職員への支援、図書館行事など、学校図書館の活動について、数々の実践例とともに教えていただきました。様々な幅のリーディングトラックを用意なさっており、子どもたちに読書の機会を少しでも多く提供しようという想いを感じ、感動しました。

2日目の加藤先生の「一日まるごとクリニック」では山鼻南小学校の学校図書館を見学し、参加者の皆様と良い点・参考にしたい点、改善点について意見交換を行い、その後、本の廃棄作業を行いました。十数人、三時間ほどで約700冊の本を廃棄図書として棚から抜き出し、同時に本の場所を変える作業なども行いました。他校の学校図書館で廃棄する本を選ぶ作業を実際に行うのは、この講座に参加しなければならない大変貴重な体験となりました。数時間のうちに瞬く間に棚の様子が変わるのを目の当たりにし、たくさんの方々と作業することの楽しさと頼もしさ、既にそこにあった本の魅力を新たに引き出せることを強く感じました。

今回も本当に多くのことを教えていただきました。少しでも多く自校で実践していきたいです。参加させていただき、本当にありがとうございました。

◆第45回北海道学校図書館研究大会に参加して

「学び方を学ぶ」

北見市立美山小学校 司書教諭 石川 しずか

初めて学校図書館研究大会に参加しました。2年前に学校図書館司書教諭の資格を取るため講習を受けた際に、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」について学びました。今回は、この機能を活かした、実際の授業や実践発表を自分の目で確かめるよいチャンスだと思いました。

5学年の国語の授業公開では、教材文を比べて読み、違いや書かれ方の工夫について端末を用いた個人活動や全体交流の取り組みがありました。リアルタイムで意見が反映されたり、全員で思考を共有できたりする「見える化」は、情報活用能力の育成に繋がります。教科書に掲載されている教材の新聞記事の文字や写真は小さいですが、拡大して見ている子どもは、分かりやすいようでした。端末だからこそ実現可能な画像処理やピンチアウトは、大変便利です。

セッションでは、公共図書館の活動が紹介されました。図書館の職員の方が出前授業を行ったり、イベント企画や地域や企業とのコラボレーションをしたりすることで、利用者増へ繋げていく取り組みが、大変素晴らしいと思いました。参加者からは、小中一貫校の図書と並べ方、専任の学校司書の未配置など、各地域の課題も見えてきました。

内沼晋太郎氏の記念講演「本との出会いをつくる」では、本に書き込みをしたら1点モノになるという視点のアートイベントの取り組みが、教育現場には無い発想で、衝撃を受けました。「本のある場所が増えれば、考える人が増える」という内沼氏の言葉も、印象に残っています。

生まれた時からインターネットがある環境で育っている現代の子どもたち、大人である私たちも、情報収集の多くはインターネットが中心です。情報源がはっきりしていたり、何年も変わらず継続使用できたりするなど、紙媒体の良さもあります。大会を通して「本との出会い」、そして「情報を正しく選択する力」や「学び方を学ぶ」ことが大切であると思いました。



2023年度(令和5年度) 北海道の先生がおすすめる本

北海道指定図書



小学校低学年の部(1・2年)



がっこうにまにあわない

ザ・キャビンカンパニー/作・絵
あかね書房 1,650円(税込)
不思議な世界をひたすら突っ走る。今日は学校に遅れちゃいけないわけがあるのだ。スピード感とスリルでドキドキの話!



うみべのおはなし 3にんぐみ

ジェイムズ・マーシャル/作 小宮 由/訳
大日本図書 1,540円(税込)
なかよしの3人組が、自分の考えたお話を順番にしていくなりに!?! 予想を超えた展開が面白い! ユーモアよみもの



イライラのあらし

ルイズ・グレッグ/作 ジュリア・サルダ/絵
吉井 知代子/訳 金の星社 1,540円(税込)
"イライラのあらし"がきたらどうしたらいいの!? どんどんふくらんでいくイライラと、じょうずにつきあいます。



いのちが かえっていくところ

最上 一平/作 伊藤 秀男/絵
葦心社 1,430円(税込)
自分で釣りあげたイワナを食べる事になったたもん。釣りを通じて命の躍動と重さを実感する少年の姿を描きます。

中学校の部



マスクと黒板

滝野 京子/作
講談社 1,540円(税込)
休校明けの生徒たちの前に見事な黒板アートが。誰が描いたのか? コロナから「ふつう」をとりもどす中学生たちの物語。



スクラッチ

歌代 朝/作
あかね書房 1,650円(税込)
コロナ禍で黒く塗りつぶされた中三の夏。その中でもがきながら自分らしい生き方を掴み取る中学生たちの"爪痕"を描く。

小学校中学年の部(3・4年)



はじめましてのダンネバード

工藤 純子/作 マコカワイ/絵
くもん出版 1,540円(税込)
「相手の気持ちに立って想像すること」や「多様性を尊重すること」の大切さを伝える、くもんの創作児童文学です。



バスが来ましたよ

由美村 嬉々/文 松本 春野/絵
アリス館 1,540円(税込)
全盲の男性が小学生に助けられて続けた、バス通勤。「バスが来ましたよ」の声は受け継がれ…小さな親切のリレーの物語。



貝のふしぎ発見記

武田 晋一/写真・文 福田 宏/監修
少年写真新聞社 1,980円(税込)
貝の正体は軟体動物! タコやイカも、ウミウシやカタツムリもみんな仲間。ふしぎな生き方を探ると驚きの連続です。

小学校高学年の部(5・6年)



父さんのゾウ

ピーター・カーナバス/作 美馬 しょうこ/訳
文研出版 1,540円(税込)
オリーブは母が亡くなり、父さんは悲しみにくれている。そのそばにはいつもゾウがいる。ゾウを消したいオリーブは…。



たぶんみんなは知らないこと

福田 隆浩/作 しんや ゆう子/イラスト
講談社 1,540円(税込)
知的障がいのある小五の女の子と兄の物語。人々の優しさを生かす力に変えて、沖縄戦を生き抜いたひめゆり学徒のももちゃん。その半生を描いたノンフィクションです。



ももちゃんのピアノ 沖縄戦・ひめゆり学徒の物語

柴田 昌平/文 阿部 結/絵
ポプラ社 1,650円(税込)
音楽を生かす力に変えて、沖縄戦を生き抜いたひめゆり学徒のももちゃん。その半生を描いたノンフィクションです。



北海道の本を読みましょう!

第69回 青少年読書感想文全道コンクール 第49回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社
■後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力/北海道読書推進運動協議会

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。 ●ホームページ 北海道学校図書館協会 検索

学校図書館情報

◆2024年度北海道学校図書館協会 定期総会の開催

日時：2024年5月18日（土）

場所：TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前
（毎日札幌会館5階）

※例年とは会場が異なります。

参集しての開催を予定しておりますのでご予約をお願いします。

◆第69回青少年読書感想文全国コンクール表彰式

表彰式は、2月2日（金）に行われました。昨年度に引き続き、表彰式会場への入場制限を設けており、収録動画をオンライン配信していました。北海道からの受賞者は次のとおりです。

<全国学校図書館協議会長賞>

帯広市立帯広小学校 5年 須田陽愛さん

「キャラを被った私に『さよならダバ』」

<サントリー奨励賞>

森町立森小学校 4年 今井玲一朗さん

「ゆめを持ち前へ歩け」

北海道教育大学附属旭川小学校 5年 本間明華さん

「かけがえのないピアノ」

今年も北海道の子どもたちの作品が全国コンクールで優秀な成績を収めることとなり、とても喜ばしく思います。これまで各支部の取りまとめや審査に協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。次回のコンクールにおいても子どもたちのために皆様のお力添えをお願いいたします。

◆各県SLA事務局長会議開催

2月1日（木）にオンラインで開催されました。第45回全国学校図書館研究大会札幌大会について進捗状況を報告しました。また、今年度行われた各地区の学校図書館研究大会について交流し、読書感想文コンクール、読書感想画コンクールの審査等について協議しました。

◆第44回全国学校図書館研究大会高松大会

令和6年8月8～9日に高松大会が行われます。北海道SLAからも分科会発表が予定されております。令和8年の札幌大会を成功させるためにも全国大会と一緒に学びませんか。

◆「北海道の読書」の販売について

1月に読書感想文コンクール作品集「北海道の読書」の発送作業を終えました。まだ若干残部がありますのでお声がけいただき、追加注文がありましたらお申込みください。

事務局

事務局長 新津 智 哉（札幌市立西陵中学校校長）

事務局校 札幌市立西陵中学校

〒063-0835 札幌市西区発寒15条2丁目5-1

TEL 011-662-9323 FAX 011-661-3729

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15

TEL (011) 857-3331

FAX (011) 857-5211

◆新刊紹介

『のうとからだにいいことえほん』

作：成田奈緒子

絵：しごくん

発行 P H P 研究所

書店発売日2024年1月22日

ISBN 978-4-569-88150-8

定価 1,500円＋税



打たれ強い脳を育てる！小児科医であり、発達脳科学者である著者が教える親子で実践「脳育て」の絵本！

●朝は7時までに起きるのだ！ ●朝ご飯は絶対に食べるのだ！ ●うんちは朝に済ませるのだ！ ●しっかりおなかを空かせるのだ！ ●歩ける距離なら歩くのだ！

●かしこく整理整頓するのだ！

乳幼児期から小学校低学年の子どもにとって最も大切なのは、「脳の土台」の部分を作ることです。自律神経をしっかり育てるとともに、きちんとお腹がすく脳、そして十分な睡眠がとれる脳を育てるために、どんなことを実践したらいいのでしょうか？

わかりやすいシチュエーションとユーモラスなイラストが読み聞かせにもぴったり！親子で楽しく「脳育て」を学べます。育児書としても活用できる解説つき。

編集後記

能登半島地震で被災された皆様、関係の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

今年の学校図書館研修講座では、学校を会場としてのクリニックやレファレンス、そして、懇親会も復活し、とても中身の濃い研修となりました。お忙しい中、各講座で発表いただきました皆様をはじめ、ご参加いただきました多くの皆様に感謝申し上げます。

（編集：村山 知成 野村 邦重）
大久保 雅人 新津 智哉

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>